

が貫通している。何らかの帳簿整理にかかるものと推定される。

この他SD一八〇から一点出土しているが、墨痕が認められるだけで判読は困難である。

三 第一二次調查

(4)

(150) × 22 × 3 019

上端から一七mmの位置に小孔がある。

訳文・内容については、関係文献③④に本項はそれを引用・要約したものである。

9 関係文献

- ①多賀城市埋蔵文化財調査センター『山王遺跡—第九次発掘調査報告書—』（一九九一年）

②同『山王遺跡—第一〇次発掘調査概報（仙塩道路建設に伴う八幡地区調査）—』（一九九一年）

③同『山王遺跡—第一二次調査概報（仙塩道路建設に伴う八幡地区調査）—』（一九九二年）

④同『山王遺跡ほか—発掘調査報告書—』（一九九三年）

多賀城市文化財調査報告書第三九集
『山王遺跡—第一七次調査—出土の漆紙文書』の刊行

多賀城市山王遺跡は多賀城の南西、砂押川の西岸に位置している遺跡である。出土文字資料として木簡・漆紙文書などがあり、その内容から国司館や漆工房の存在が推定されている。漆紙文書についてはすでに二点が報告されているが（多賀城市埋蔵文化財調査センター「山王遺跡—第一二次調査概報」一九九二年）、その後出土した五点についての報告書が刊行された。

本文、現状写真、赤外線テレビの画像の図版を掲載し、関連する木簡、正倉院文書などの史料の検討を踏まえた解説を付す。中でも駅戸編成のあり方を示す記載を含む計帳歴名（三号文書）、現存計帳とは戸口の記載順を異にする計帳様文書（四号文書）などが注目される。

多賀城市埋蔵文化財調査センター編集
多賀城市教育委員会発行

一九九五年三月刊

図版一枚、本文三〇頁、B5版
頒価一〇〇〇円、送料一冊二四〇円

問い合わせ先 多賀城市埋蔵文化財調査センター

〒九八五 多賀城市中央一丁目七一二
TEL ○二三一三六八一〇三四

(千葉孝弥)